

「テキスタイル×アート」推進事業費補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 知事は、県産テキスタイルの高付加価値化及び国内外への販路拡大を図るため、テキスタイル及びアート並びにデザインを融合させたイベント等における国内外へのプロモーションやビジネスマッチング等を行う事業（以下「補助事業」という。）に対し、予算の範囲内で補助金を交付するものとし、その交付に関しては、山梨県補助金等交付規則（昭和38年山梨県規則第25号）に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

(定義)

第2条 この要綱において、補助金の交付対象者は本県の織物事業者が数多く所在する富士吉田市（以下「市」という。）とし、事業実施主体は補助事業の遂行にあたり、市が適当と認める者とする。

(補助金の交付対象事業)

第3条 補助金の交付対象事業は、事業実施主体が行う補助事業に対し、市が補助する事業に必要な経費であって、別表「補助対象経費等」（以下「別表」という。）のうち、知事が必要かつ適当と認めるものとする。

(補助率)

第4条 知事が交付する補助金の補助率は、別表のとおりとする。

(交付の申請)

第5条 市は補助金の交付を受けようとするときは、様式第1による補助金交付申請書を知事に提出しなければならない。

2 前項の補助金交付申請にあたっては、補助金に係る消費税等仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）の規定より仕入に係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下同じ。）を減額して申請しなければならない。ただし、申請時において当該消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りでない。

(交付の決定)

第6条 知事は、前条の規定により補助金交付申請書の提出があったときは、その内容を審査の上、適当と認めるときは、補助金の交付決定を行い、様式第2による補助金交付決定通知書により市に通知するものとする。この場合において、知事は、必要に応じて審査を行うために参考となる資料の提出を市に求めることができる。

2 知事は、前項による交付の決定に当たっては、前条第2項により補助金に係る消費税等仕入控除税額について減額して交付申請がなされたものについては、これを審査し、適当と認めたときは、当該消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額を減額するものとする。

3 知事は、前条第2項のただし書による交付の申請がなされたものについては、補助金に係る消費税等仕入控除税額について、補助金の額の確定において減額を行う

こととし、その旨の条件を付して交付決定を行うものとする。

(申請の取下げ)

第7条 市は、前条の規定による通知に係る補助金の交付決定の内容及びこれに付された条件に対して不服があり、補助金の交付の申請を取り下げようとするときは、その交付決定の通知を受けた日から20日以内にその旨を記載した書面を知事に提出しなければならない。

(補助事業の内容又は経費の配分の変更)

第8条 市は、補助事業に要する経費の配分又は補助事業の内容の変更をしようとするときは、様式第3による補助事業変更承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、補助対象経費の各費目相互間において、いずれか低い額の20%以内を増減させる場合又は補助事業の目的の達成に支障をきたさない事業計画の細部の変更であって、交付決定を受けた補助金の額の増額を伴わない場合はこの限りではない。

2 知事は、前項の承認に必要な応じ条件を付し、又はこれを変更することができる。

(補助事業の中止又は廃止)

第9条 市は、補助事業を中止し又は廃止しようとするときは、あらかじめ、様式第4による補助事業中止（廃止）承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。

(補助事業遅延等の報告)

第10条 市は、補助事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれるとき又は補助事業の遂行が困難になったときは、速やかに様式第5による補助事業遅延等報告書を知事に提出し、その指示を受けなければならない。

(遂行状況報告)

第11条 知事は市に対して補助事業の遂行及び収支の状況について、必要に応じ様式第6による補助事業遂行状況報告書の提出を求めることができる。

(実績報告)

第12条 市は、補助事業が完了したとき若しくは第9条の規定による廃止の承認を受けたときは、その日から起算して1箇月を経過した日又は別に定める日のいずれか早い期日までに様式第7による補助事業実績報告書を知事に提出しなければならない。

2 市は、前項の実績報告を行うにあたって、補助金に係る消費税等仕入控除税額が明らかな場合には、当該消費税等仕入控除税額を減額して報告しなければならない。

(額の確定等)

第13条 知事は、前条第1項の報告を受けた場合には、報告書等の書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付決定内容（第8条に基づく承認をした場合は、その承認した内容）及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、市に通知するものとする。

- 2 知事は、市に交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、その超える部分の補助金の返還を命ずるものとする。
- 3 前項の補助金の返還期限は、別に定める日とし、期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る期間に応じて、年10.95%の割合で計算した延滞金を徴するものとする。

(概算払の請求)

- 第14条 知事は、必要があると認める場合には、市に対し、概算払により補助金を交付することができる。
- 2 市は、前項の規定により補助金の概算払を受けようとするときは、様式第8による補助金概算払請求書を知事に提出しなければならない。

(補助金の経理等)

- 第15条 市は、補助金に係る経理について、収支の事実を明確にした証拠書類を整理し、かつ、これらの書類を補助事業が完了した日の属する会計年度の終了後5年間保存しておかなければならない。

(消費税等仕入控除税額の確定に伴う補助金の返還)

- 第16条 市は、補助事業完了後に消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税等仕入控除税額が確定した場合には、様式第9により速やかに知事に報告しなければならない。
- 2 知事は、前項の報告があった場合には、当該消費税等仕入控除税額の全額又は一部の返還を命ずる。

(間接補助金に係る条件)

- 第17条 市は、事業実施主体が行う事業に対し間接補助金を交付するときは、第8条、第9条、第10条及び第15条に規定する事項を履行させるために必要な条件を付さなければならない。

(その他必要な事項)

- 第18条 補助金の交付に関するその他必要な事項は、知事が別にこれを定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和5年8月21日から施行する。
- 2 この要綱は、令和8年3月31日限り、その効力を失う。ただし、この要綱に基づき交付決定された補助金については、この要綱の失効後も、なおその効力を有する。

附 則

- この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

別表 補助対象経費等

補助対象経費		補助率
経費区分	経費内容	
謝金	専門家謝金、講師謝金	補助対象経費の1/2以内
旅費	専門家旅費、講師旅費、出展旅費、研修旅費、打ち合わせ旅費等	
庁費	会議費、会場借上費、会場整備費、印刷製本費、資料購入費、資料作成費、通信運搬費、調査研究費、広告宣伝費、通訳料、翻訳料、消耗品費、雑役務費、原材料購入費、新作品試作料、保険料等	
委託費	事業の一部を委託する経費	
その他	上記に掲げるもののほか、知事が特に必要と認める経費	